

## 南山学園理事長からのメッセージ

南山学園は、キリスト教世界観に基づく教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指します。この建学の理念を実現するために、今回、南山学園の全構成員に対し、以下に掲げる基本方針を公表いたしました。この基本方針に沿って、理事、学長、校長、教育職員、事務職員等がお互いに協力しながら一丸となって努力していくことを約束いたします。

### 今後の南山学園の基本的な方向性

南山学園が掲げる教育理念の一つ「国際性の涵養」に係る取組みを充実させ、同時に、「南山大学を中心とした、質の高い学園内教育連携」の具現化を最重要課題とする。そのために、各単位校が策定した「20年後の将来像」について、そのビジョンの実現に向けた短期・中長期目標とこれまでの活動を検証する。各単位校は、常に教育と研究の充実を図り、学園内において連携協力しながら、児童、生徒、学生の人格形成を推進し、確かな学力と豊かな人間力を身につけた人材の育成を通じて社会に貢献するものとする。

#### (1) 国際性の涵養

今回新たに基本方針を策定するにあたり、南山学園の教育理念である「キリスト教世界観に基づく学校教育」、「知的理解と厳しい知的訓練」、「地域社会への奉仕」、「国際性の涵養」を踏まえたうえで、南山大学を中心として南山学園の現状について考えてみました。これまで南山大学を始め各単位校は「国際性」を特色の一つとして挙げておりましたが、最近では東海地区の他大学でも国際性を特色とした学部学科が設置され、小・中・高等学校でも国際性を特色とした取組みが実施されています。このため、南山学園が他の学校（学園）とどのような差異化を図っていくのかが大きな課題と言えます。

南山大学を始めとして、各単位校がこれからも地域はもちろん世界から高い評価・支持を獲得するためには、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行わなければなりません。世界のどこの地に行き、どのような人と交わるにしても、他者の尊厳を認め、偏見の無い精神で相互の理解と友情を育てることができる国際人の基礎を創ることこそ「国際性の涵養」を説く意図であり、「人間の尊厳のために」を教育モットーとする南山学園の「キリスト教世界観に基づく学校教育」が目指すものだからです。

各単位校においては、初等・中等・高等教育の中で既に国際教育・国際交流を実施して

おりますが、その取組み自体が現在、そして将来に亘って「特色あるもの」と言うにふさわしいかどうかの点検が必要です。点検の結果、その特色が既に色褪せていたり、あるいは他の大学、小・中・高等学校の取組みと差異化できない状態であるならば、相当の危機感をもって早急に教育研究活動の改革に乗り出す必要があります。南山学園は、社会の期待を裏切ることなく、常に国際教育の先頭に立つ存在でなければなりません。「国際性の涵養」という教育理念を説く意図を十分に理解し、南山ならではの、南山だからこそできる国際教育の取組みを各単位校が責任を持って主体的に創りだしていくことを求めます。

## (2) 質の高い学園内教育連携

前回の基本方針を公表してから今日に至るまで、南山学園における学園内教育連携に係る環境は大きな変化を遂げました。まず、初等教育から高等教育までの総合教育の完成を目指して、2008年4月に南山大学附属小学校を開校しました。

続いて、南山短期大学においても、2011年4月に「南山大学短期大学部」と名称変更し、大学名古屋キャンパスに移転したことで、大学との有機的な連携の強化、相互啓発など一層質の高い教育効果が期待されます。

「質の高い学園内教育連携」を追究するにあたっては、初等・中等・高等教育それぞれを終えた卒業生が、様々なフィールドで活躍し貢献する際に「南山」で学んだ成果を十分に発揮できるかどうかことが重要となります。それを可能にするものが各単位校間の緊密な連携と相互協力であり、その中心となるのが南山大学ですが、小・中・高等学校も主体的な姿勢で臨まなければなりません。連携を考える場合、一般的には小中高大という接続を意識した縦のつながりが考えられますが、横の一層のつながりもありうることを忘れてはいけません。例えば、高等学校・中学校間においては、教員の見識を広げ専門性を高めるために、一定の人数・期間による人事交流の機会を設けることを先回の理事長基本方針にも挙げましたが、これに加えて、教育課程（カリキュラム）を通して生徒の交流を行なうことができれば、相互協力の広がりもより期待できます。

さらに、「南山」で学んだ成果を南山学園全体にもフィードバックさせるという観点から、各学校の同窓会との連携も学園内教育連携の重要な一環です。同窓会の各学校への期待を汲みとり、また、同窓会が持つ社会との多様なネットワークを活用することで、同窓会との連携も「南山」の教育効果を広げるうえで大きな役割が期待できます。

そして、各単位校間の緊密な連携と相互協力を行なうにあたっては、学園全体の一貫教育も意識しなければなりません。これまで学園内においては「一貫教育」について議論はされているものの、具体的な方向性を定めるには至っておりませんでした。しかし、本学園の教育理念にある「キリスト教世界観に基づく学校教育」、「地域社会への奉仕」、「国際性の涵養」については各単位校においても既に取り組んでいるところであり、一貫教育を考えるにあたって具体的な方向性を導き出し、共有することはそれほど難しくないと考えられるでしょう。一貫教育の取組みについても、各単位校が主体的に考え実践していくこと

を期待しています。

「南山学園の一貫教育」が目指す姿は、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを核として掲げ、まず初等教育において「人間の尊厳」の精神をしっかりと培い、中等・高等教育においてさらに深め、社会で活躍する中で具体的な実りを豊かにもたらすことができるようにすることです。その具体的な実りが多様な形で、しかも高度なレベルで実現されることを各単位校の共通の目標と位置づけます。

### (3) 地域社会への貢献

南山学園は教育理念の一つとして「地域社会への奉仕」を掲げております。ここ最近の動きとして企業の社会的責任が大きく取り上げられておりますが、教育機関も例外ではなく、むしろ企業以上に社会的責任が問われる存在とも言えます。

南山学園ではこれまでも確かな学力と豊かな人間力を身につけ、地域社会のために責任を持ち貢献していくことができる人材の育成を実践してきましたが、日々社会からの期待、要求に対して教育研究活動を通して説明責任を果たしていかなければなりません。既に、南山大学においては、実務分野との関連性の深い各学部、研究科（ビジネス研究科、数理情報研究科、法務研究科など）を中心に、産学連携事業を通じて産業界の要望と本学の知識・技術を有機的に結びつけ、ビジネススクールや法科大学院での専門職教育によって、より一層高度な専門知識やスキルを身に付けた人材を育成しております。さらに、南山エクステンション・カレッジでは、これまでも生涯学習の場として多くの人々のニーズに合った学びの機会を提供しており、南山短期大学の南山大学短期大学部化に伴いコミュニティカレッジ公開講座を統合したことにより、新たな展開が可能となります。その他にも、例えば、児童・生徒・学生が主体となるボランティアを始めとした奉仕活動を挙げることができますが、これらの活動を通して、恒常的に地域社会との教育連携に取り組むことを意識し、活性化しなければなりません。初等・中等・高等教育に応じてその連携活動の内容も様々ではありますが、各単位校がこれまで以上に積極的に取り組むことで、南山学園全体が社会に貢献し、社会から得られる信頼を糧にして、より質の高い教育を実践することを期待しております。

以 上

2011年4月1日

学校法人 南山学園

理事長 ハンス ユーゲン・マルクス